

L01a **2012年10月りゅう座流星群のMUレーダーヘッドエコー観測**

藤原康徳（総研大, 極地研）, Johan Kero, Csilla Szasz(IRF)、中村卓司（極地研）、阿保真（首都大学東京）

10月りゅう座流星群は、21P/Giacobini-Zinner 彗星を親天体とする流星群で、1933年、1946年にはZHR10,000を上回る流星嵐をおこしたことで知られている。

近年、親彗星からのダスト（流星体）放出とそのダストの軌道変化を計算でシミュレーションすることによりその彗星からのダストの地球近傍での分布を求め、それによる流星群の出現予報が行われている。この方法により、2011年には、Giacobini-Zinner 彗星からの流星群の活発な出現が予報され、実際の観測とよい一致をみた。

2012年には、この彗星からのダストは地球に大きく近づくことはなく、活発な出現があることは予報されていなかった。我々は、2012年10月8日～10日に大型大気レーダーであるMUレーダー（京都大学生存圏研究所：甲賀市滋賀県）でヘッドエコーモードによる電波観測を実施した。10月8日の13時～20時（UT）に、10月りゅう座流星群の活発な活動を捉えた。

活動の中心時間帯（13-20時UT）での51個の流星からの平均輻射点は、赤経 =262.5度、赤緯 =+55.8度、地心速度 $V_g=20.6\text{km/s}$ であった。発表では、2011年のMUレーダーでのヘッドエコー観測結果（Kero et al. 2012）との比較結果についても報告する。